

認知症と耳鼻いんこう科

認知症と耳鼻科って関係あるのですか？

かつては痴呆症と呼ばれていましたが、ネーミングがふさわしくないといわれては認知症と呼ばれるようになりました。人間の精神活動や身体活動を支配する司令塔の機能不全ともいえるのでしょうか？その原因はさまざまですが、最近の知見では認知症と耳鼻咽喉科は関連が深いことがわかってきました。「五感」って聞いたことがありますね。視・聴・嗅・味・触の5つの感覚です。「五感を研ぎ澄ます」とかいいいますが、これらすべてに耳鼻咽喉科学は関与し、少なくとも3つは主体的に関与します。

これらの感覚器は脳神経といって直接脳そのものから神経が伸びて頭や顔に左右分布します。脳への直接入力に係るセンサーの不具合は、脳そのものの働きに影響すると想像するに難しくありません。2017年ランセットという権威ある医学雑誌に難聴が認知症発症の大きなリスクファクターになることが発表されました。

他の五感の何かも関連ありますか？

国民の超高齢化に伴い、認知症患者数も年々増加しています。厚生労働省の予測によると、7年後の2025年には患者数が現状の1.5倍に膨れ上がり、

レビー小体型認知症は、幻視、妄想や睡眠時の異常言動が有名です。睡眠中の無呼吸の検査は耳鼻咽喉科や呼吸器内科で行います。

これからどう認知症を予防していったらよいのですか？

新オレンジプランをご存知でしょうか。国策としての認知症施策推進総合戦略です。基本的考え方は、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らしつづけることができる社会の実現を目指すことです。その7つの柱の一つに認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究、開発及びその成果の普及の推進があります。高血圧、糖尿病、喫煙、難聴等が認知症の危険因子であることを踏まえ、発症予防には運動、口腔に係る機能の向上、栄養改善、社会交流、趣味活動などの日常生活の

良いところに気づかれましたね。睡眠の質は認知症やうつ病と関連することもわかってきました。認知症患者さんでは高率に、健常者と比べ睡眠時無呼吸症候群を認めたというデータもあります。また睡眠時無呼吸の程度は特に80歳以下の認知症患者さんの認知機能と相関したという報告もあるようです。また

取り組みが重要です。当院は認知症疾患医療センターを有し、愛知県の国立長寿医療研究センターの難聴に係る調査研究に耳鼻いんこう科も参加予定であり、今後の研究成果が期待されます。

65歳以上の高齢者の5人に1人は認知症患者になるとされています。根本的な治療は確立されていない認知症ですが、対策が全くないというわけではありません。認知機能低下の早期発見の重要性が知られつつありますが、実は「嗅覚」が関わっていることがわかりました。日本人の認知症で最も多いアルツハイマー型認知症では、記憶をつかさどる「海馬」が萎縮することによ



今月の先生



岐阜市民病院 耳鼻いんこう科・頭頸部外科
白戸弘道 先生

<p>専門分野 中耳炎手術、頸部腫瘍に対する精査、治療 役割 医療安全局長 耳鼻いんこう科部長 頭頸部外科部長 主な資格・認定 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本気管食道科学会認定医</p>	<p>聴音性難聴担当医 補聴器適合判定医師相談医 インフュージョンコントロールドクター (ICD) 岐阜大学医学部附属病院耳鼻咽喉科客員臨床系准教授 卒業年 昭和59年卒</p>
--	--